

## 横網の「復興記念館」

東京両国の江戸東京博物館は、外国人を含め多くの人が訪れていた。最上階の見晴らしのよいレストランも一杯であり、東京の「観光スポット」になっているようだ。

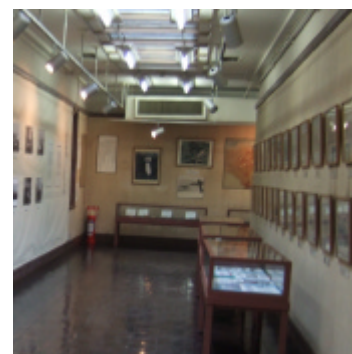
近くの横網町公園にある震災慰霊堂(現東京都慰霊堂)と復興記念館に行った。これには「わけ」がある。森達也『東京番外地』(新潮文庫)を読むまでは、両国国技館の近くなので「横網町」を「横綱町」と思い込んでいた。それで横網(ヨコアミ)を訪ねることにした。

ここで毎年 3 月 10 日、東京大空襲で亡くなった人たちの霊を慰める「春季慰霊大法要」が行われる。建築家・伊東忠太氏が



設計建築した壮大な慰霊堂の付帯施設、復興記念館に入った。「関東大震災の惨禍を長く後世に伝え、また官民協力して焦土と化した東京を復興させた当時の大事業を永久に記念するために」建てられたという。

1 階は関東大震災の被害資料が展示されており、震災の午前 11 時 58 分で止まった時計に目が向かった。神戸長田区役所で見た午前 5 時 46 分で止まったままの時計を思い起こ



した。2 階には震災復興事業資料、東京大空襲による戦災関係資料、そして阪神・淡路大震災の災害写真が展示してある。

先の江戸東京博物館の賑わいとは違って、ここは訪れる人も少なかった。静かな復興記念館のなかで、二つの大震災、そして東京大空襲などの戦災について、じっくりと考えることができた。

(2010 年 3 月 14 日 記)